

V. 通級指導教室の実践



教師との1対1でのかかわりを中心とした指導の実践

安心できる居場所作りと心身の開放

個別指導の実践

通級指導教室に入級後は、実態把握をしながら、できるだけ個別の指導から始めています。子どもの実態を見つめ、一緒に活動し、そして子どもと教師が交互に行うということを大切にし、一貫性のあるかかわり方で、個々の特性に応じた指導を行います。自分に合った方法が見いだせたり、自分が主役になれる場が存在することを実感したりすることで、子どもは自信をつけていきます。今回は、運動が苦手な子どもの個別指導に、トランポリンを活用した実践を紹介します。

トランポリンアラカルム

ねらい

- ・トランポリンで楽しく運動量を確保し、身体能力の発達を目的とした調整力をつける
- ・ストレスの発散や精神面の安定を促す

内 容

- ①担任と一緒に跳ぶ（手つなぎ）
- ②一人で跳ぶ（座位・立位・足じゃんけん跳び・縄とびまねっこ等）
- ③ゲームを楽しみながら跳ぶ 例：輪投げキャッチング・ボールブロッキング等

＊使用したトランポリン：直径210cm・制限体重70kg・補助棒付き

【エピソード & 子どもの変容】

- ・体を動かすことが苦手で体育の授業をほとんど受けていないAさん。トランポリンに誘うとバランスが保てず「できないよ」と怖がっていたが「先生と一緒に跳んでみよう」と手をさしのべると、おそろおそろトランポリンに上がった。少しずつ跳ぶことに慣れると、自分から教師の手を離して跳ぶ姿が見られた。いつの間にか、通級すると真っ先に、トランポリンに向かうようになっていた。
- ・短縄の柄の部分だけを持ちながら、トランポリンで「縄跳びまねっこ」をするうちに、短縄跳びができるようになった。在籍学級での縄跳び大会に参加して、大きな自信を得ることができた。

取組を振り返って（トランポリン活用の効果）

◆信頼関係作りに効果的

- ・身体接触の場面が多くなり、子どもと教師の距離感が狭まり信頼関係が育まれます。安心できるかかわりを基盤にして、更に個々の課題に取り組みやすくなります。

◆不足しがちな運動量の確保と発散効果

- ・「身を任せる」状態から、運動に伴う負担感をあまり感じることなく、一定の運動量が保てます。また調整力がつき、跳躍のための体の使い方や筋力が獲得され、その結果、短縄飛び獲得へつな갑니다。

活動後はスッキリとした感覚が味わえ、心身の開放にも最適です。



子ども同士の関わりを通じて適応を目指す小集団実践

小集団指導の実践

日常生活で、対人関係につまずきのある子どもにとって、個別に学習したスキル（言葉のかけ方や話の聞き方等）を小集団で活用できるようになることが大切です。

通級指導教室では、小集団での活動を通じて、問題解決に必要な場面を意図的に設定し、子どもが学習したスキルをタイミングよく使う練習を行っています。そこで、成功体験を積み重ねた子どもは、様々な活動に対して自信を持てるようになり、意欲が高まっていきます。小集団の活動で培われた力をもとに通常の学級でも、子ども自身が獲得したスキルをうまく使えるようになることを目指して、小集団指導を行っています。

＜小集団指導での子どもの目標＞

- ・安心して、自己表現ができる。
- ・集団生活でのルールやコミュニケーションの仕方（言葉かけ・タイミング）を知り、仲間と楽しくかかわり合う喜びを知る。
- ・体験を通じて自己肯定感を高め、自信を持って生活できるようになる。



＜ネーミングが成功を左右する＞

- ・題材名は、子ども達の意欲を高める大切なポイントとなります。できるだけ、聞いただけで「あれ？どんな活動だろう？」など興味関心がもてるような工夫をします。

＜グループ編成＞

- ・生活年齢（低・中・高学年）を基本に、子ども同士の相性を考慮して3名から5名で、グループを編成する。

＜指導内容＞

- ・ゲーム形式で、かかわり合いながら、ニーズに応じたスキルが獲得できるように活動を構成する。
（例）話し合い、話す・聞く、協力、自己コントロール等
- ・同じ活動内容でも、低学年・中学年・高学年と各グループに応じて課題や目標をレベルアップしていく。
（例）ルールは『やさしい』→『難しい』 話し合い活動は『教師と』→『子ども同士へ』



《子どもがよりよく活動できるための五つのポイント》

- ① メンバーに合った課題を用意すること
- ② 子どもの自主的な発言や行動を尊重すること
- ③ 活動中に励ましたり、ほめたり、認めたりすること
- ④ 協力して行う活動や、協力する気持ちを大切にすること
- ⑤ 困った時には支援したり、支援の求め方を指導したりすること

【 エピソード & 子どもの変容 】

（実践事例集P30「こうそうビルゲーム」参照）

*** 作戦タイムでのやりとりの充実がポイント** 「ぼくは〇〇と思うけど、△△くんは？」や「〇〇するためには、△△したらどう？」等の話し方スキルを提示して、話し合いを行うようにした。自分の意見は積極的に伝えることができて、相手の意見を聞き入れることができなかったAさんが、チームの勝利のために、相手の意見を受け入れて協力する態度が見られるようになった。

*** 気持ちの葛藤場面を設定する** 勝負にこだわるBさんに、どちらが高く箱を積み上げられるかというゲームの結果発表の時に、高い方を指さして答えるようにした。初めは、相手チームの方が高くても自分のチームを指さしていたBさんが、活動を重ねる中で、客観的に結果を受け入れられるようになった。教師はその変化に気づき、タイミングよく称賛をした。獲得して欲しい行動は、その時、その場でほめ、本人に伝えていくことが大切である。

VI. 個別の指導計画書式例

(児童生徒のアセスメント表)

市立 小学校 校長名

年組	ふりがな	生年月日	記入者	学級担任 ()
年 組	氏名	平成 年 月 日	記入日	通級担当 ()
		性別 男 ・ 女		平成 年 月 日記入
保護者名	住所	連絡先	☎	
前担任名	学校	市立 学校	連絡先	☎
診 断 名	病 院 ・ 主 治 医 ・ 関 係 機 関			服薬 ・ 回数等
LD ・ ADHD	病院 (先生) ☎			()
そ の 他 ()	教育センター (担当) ☎			その他 ()
主に課題となっている点				
本 人				
保護者				
担 任				
担任の 願い			保護者の 願い	
生育暦 ・ 教育相談暦等				
好きなこと 得意なこと 良いところ	・			
該当するものを チェックしましょう。				
実 態 と 配 慮 事 項				
- 感情のコントロール (できる・できない) - 自己肯定感 (高い 普通 低い) - こだわり (有 ・ 無) - 忘れ物 (多 ・ 少) - 多動 (有 ・ 無) - パニック (有 ・ 無) - 不器用さ (有 ・ 無) - 読み (ひらがな・カタカナ・漢字) - 書き (ひらがな・カタカナ・漢字) - 予定の変更を事前に知らせること (必要 ・ 不要) - 感覚過敏の有無 (有 ・ 無) (音・味覚・触覚・嗅覚・その他) - その他 ()				
課 題	現 状 と 課 題		具 体 的 な 対 応	
諸 検 査	WISC-Ⅲ・K-ABC・DN-CAS LDI・読み書きスクリーニング その他 () * 詳細は別紙添付		備 考	例：パニック時の対応 - 個別の教材 - 放課後支援団体
特記事項				

平成〇年度 LD・ADHD通級指導教室 個別の指導計画

氏名 _____ (男・女) _____ 〇〇〇〇〇 学校 _____ 〇年 〇 組
 通級開始時期 _____ 年 _____ 月～ _____ 個別指導： 1 回/週 (_____ 分)
 小集団指導 _____

長期目標

	在籍学級における長期目標	通級指導教室における長期目標
対 人 情 緒 行 動 等	ポイント ・通級指導教室担当教員と在籍学級担任が、児童生徒に対する共通の認識のもと、関連性のある目標を立てます。	
学 習	ポイント ・必要と思われる教科のみを取り上げて、目標を立てます。	

短期目標（前 期）

対 人 ・ 情 緒 ・ 行 動 等	在籍学級の 目 標	・自分がやりたいことを、言葉で伝えることができる。		
	通級指導 教室	目 標 ・友だちや先生に話をする時には、相手の名前を呼び、話をしてもよいか確認してから話をする。	手 立 て ・状況カードやソーシャルストーリー等を用いて「何と言えばよいのか」「どんなタイミングで伝えればよいのか」等、具体的な方法を伝え練習する。	評 価 ・ 変 容 ・突然話始めた時には、「誰に話しているの」と確認して、相手の名前を呼ぶことに気づかせるようにすると、「〇〇君、話をしてもいいですか」と尋ねることができるようになった。
学 習	在籍学級の 目 標	・一度、ノートに書いてから、発言する。 (国語)		
	通級指導 教室	目 標 ・基礎漢字を覚えることができる。	手 立 て ・漢字パズルや101基本漢字カルタ・プリント等を活用する。	評 価 ・ 変 容 ・漢字に興味を持つようになった。その結果、101文字の基本漢字は96%読み書きできるようになった。 ・母親も漢字ノートに丁寧に手本を書いてくれるようになり、学校と家庭で継続した支援ができ、細部にまで注意して書くことができるようになった。